

「今後求められる高等学校」について

2012・9・07

中国放送・青木暢之

1) グローバル化に対応できる人材

県下には国際科がひとつあるが、中高一貫の県立広島中・高等学校も含めて、海外への直接留学が可能なコースを設けることが考えられる。

具体的には米国大学への進学に必要な大学進学適性検査（SAT）、TOEFLの試験サポートなど外国語学習の充実とともに、海外生活に必要な学習・指導を行う。既に新潟など他県に例があると聞く。

背景にはファーストリテリングなど海外展開する企業などでの人材が必要とされている。

2) 家庭科、看護科の充実

少子高齢化が進む社会に対応するため、今後、医療や介護サービスの一層の充実が社会的にも要請される。

現在、家庭科は公立5校、私立1校、看護科は公立1校とあるが、大学や医師会との連携も視野に入れながら、さらなる充実が必要と考える。

3) 水産科の新設

本県は瀬戸内海を抱えていて、歴史的にも水産業や水産に関係する養殖業が盛んであった。しかしながら、現在は後継者が不足し、広島湾では漁業者がほとんどいなくなるといった状況さえ現出している。大崎海星高校など島にある高校などで、そうした水産や養殖、海の環境を学べる水産科を新設してはどうか。

4) 一般的な課題

本県の課題には、私学や公立を含めて優秀な人材が東京などに流出し、なかなか古里を支える人材が少ないという点がある。

将来、地域の産業や職業に目を向けてもらうためにも、高校在学時の夏休みなどで、インターンシップなど企業とのかかわりを積極的に経験させる必要がある。社会性を身につけるためにはボランティア活動（例えば養護老人ホーム、身障者施設など）を経験させる方法もある。レポートや発表をさせることで単位を担保すればよい。

外せない用件と重なったため、意見をペーパーで出させていただきます。お手数をお掛けしますが、よろしくお願いします。申し訳ありません。